《入選》

心ほぐれる人権社会に

南中学校　１年
江畑（えばた）　和哉（かずや）　さん

言葉とは何だろうか。ぼくが思うには、言葉とは「その人の本質を映し出す鏡」だと考える。言葉にも種類がある。「温かい言葉」や「優しい言葉」もあれば、「汚い言葉」や「人を傷つける言葉」だってある。いろんな言葉で人とつながっているが、その言葉によってまわりからどのように見られているのだろうか。言葉によっては、人権が侵害されていることもある。

近年、ＬＩＮＥやＳＮＳなどのコミュニケーションアプリを使った悪口やいじめが増えている。悪口で心をケガする。相手から送られてきた「きもい」や「死ね」といった傷つく言葉を見てどう思うだろうか。今は便利なことに「削除」という機能がついていて送った文章などを消すことができる。後から、先生や親に知られたくないからや相手に申し訳ないからといって文章などを削除する人がいる。形としては削除されるが、送られてきた人の心からは一生消されない。

既読がついていなかったから、相手は読んでいないから別に大丈夫だろうと思う人もいるかもしれないが、送られてきて、メッセージを消された人はどんな考えが頭をよぎるのだろうか。ただ「メッセージが取り消されました。」という文からどんな感情を抱くのだろうか。

「何を送られたのかな。」

「何。」などと困惑するだろう。

もし、これで命を落としたら「殺した」ことになる。武器で人を殺さなかったとしても言葉で人を殺したことになる。そんな言葉をぼくたちは使っているのだと考えると言葉というものを適切に使わないといけないことや自分が言ったことには責任を持たなければならないということが改めて伝わってくる。

全ての人に同じ言葉使いではいけない。人との距離をしっかりと考えないといけない。よくしゃべる人、あまりしゃべらない人、仲が良い人、あまり仲良くない人、いろんな人がいる。でも、しゃべる時がある。その時はどんな口調で相手と接すればいいのかをしっかり考えながら話すことが大切だ。

今は、コロナ禍で不安や悲しみなどをだれもが抱えている。そして、三密を避けなければいけなく、人と人との距離も離れてしまっている。その影響でＳＮＳやＬＩＮＥなどによって人権が侵害されている。こういう世の中だからこそ、「言葉」で心と心のディスタンスを縮めていき、コミュニケーションをとることで心を打ち解けさせることが大切だと考える。人と何度もコミュニケーションをとり、その中で人との距離を知る。誰もが心ほぐれる人権社会に。